Ⅱ－４．特別支援学校での ICF-CY 活用の実際 3

―寄宿舎における ICF-CY 活用の試み―

キーワード　特別支援学校　寄宿舎　ICF-CY

１．寄宿舎における ICF 活用の可能性

静岡県立中央養護学校（以下，本校）では，寄宿舎教育目標「友達との生活を通して，自分自身を発見し自立できる生徒」を実現するために，寄宿舎における実践指導を通じて，個々の実態に応じた生活技術の獲得と社会的自立に向けた生活力の育成を目指している。

寄宿舎は「生活」の実践の場であり，子どもたちは生活を通じて，個々の能力に応じて生活技術の獲得をはかり，生活力の向上をめざしている。その寄宿舎で支援にあたる寄宿舎指導員には，一人一人の生活を幅広く捉え，個々の能力に応じた生活技術や生活の工夫を見いだす支援の力が要求されている。

こうしたことから，生活機能の分類である ICF の視点を寄宿舎の支援にとりいれることはたいへん有効であると考えた。ICF 及び ICF-CY の視点から子どもたちの生活を捉え個々の課題や支援を設定することができれば，さらに幅広い支援の方法が見出せる可能性がある。そこで，ICF の基本的な考え方を知ることから始め，ICF 及び ICF-CY の考え方を具体的な支援の場に活かすためのツール（ICF 関連図，コードセット）を作成する研修を進めた。

２．取組の実際

（１）ICF の概念を学習するための研修会の実施

この研修の大きな目的は，寄宿舎指導員が ICF の概念的枠組みに基づいて一人一人の子どもを捉え，そこから支援の方策を探ることができるようになることであった。しかし，当初，寄宿舎指導員全体としての ICF に関する知識は，具体的な支援に活かす方策を探るには不十分であった。そのため，ICF の考え方を再度確認し，その概念を共通理解していくことが必要であった。

そこで，ICF の基本的な考え方に関する研修として，以下のような研修会を３回実施した。

第１回　ICF とは何か？　ICIDH から ICF へ（講師：校内職員）

第２回　寄宿舎における ICF 活用の可能性について　ICF 関連図の作成　（講師：国立特別支援教育総合研究所・本課題別研究担当者）

第３回　当事者から見た ICF について　障害者運動の歴史から。（講師：県内の NPO 団体職員（障害のある当時者））

（２）寄宿舎における ICF 関連図とコードセットの作成

①ICF 関連図の作成

ICF の考え方に対する理解を進めながら，ICF を支援に活かすツールとして ICF 関連図を作成することとした。第２回目の研修会では，本課題別研究の中で取り上げられた「ICF 関連図作成

手順」[1] に基づいて作成作業を行った。この作業によって，ICF の概念的枠組みに基づいて子どもを捉えるということを具体的に理解することができた。

また，この研修では教員も参加し，同じグループの中で関連図作成作業を行った。その結果，子どもを捉える時の，それぞれの指導現場による視点の差がよりはっきりとあらわれ，教室と寄宿舎の連携のための共通言語として ICF が活かせる可能性があることがわかった。

そこで，本校においても関連図を ICF 活用のツールとして導入することとし，さらに，本校の寄宿舎にとって使いやすい関連図を作成することを目指して，以下のように研修を進めた。

○「ICF 関連図作成手順マニュアル」を参考にした関連図の作成

「ICF 関連図作成手順マニュアル」を参考にして関連図の作成を始めた。担当する子どもの中から対象児を一人選び，以下の手順で作成した。作成作業は寄宿舎指導員全員が同じ場で話し合いを交えながら行い，担当だけの主観で判断するのではなく，他の職員からの意見も聞きながら進めていくようにした。

以下の手順で関連図作成を行った。

・個々の子どもの「参加」から考える（例えば，卒業後の進路などを想定する）。
・「参加」から考えられる「活動」を捉える。
・子どもを取り巻く環境因子，個人因子を考える。
・最後に健康状態，身体構造，心身機能を考える。
・最初は文章で表記し，関連すると思われる項目を探る。
　ここでは，項目の評価を行うことより，項目を使うことに慣れることを目的とする。
・身体構造，心身機能の評価の際は，それらにばかり焦点を当てないように促した。，
　さらに必要性があれば項目を探る。

○関連図作成の中での戸惑いと疑問

ICF の考え方を具体化していく作業は初めてだったため，ICF の考え方はある程度理解されているものの，実際作業を進めていくと，以下のような様々な戸惑いや疑問が出されてきた。

・「参加」をどう考えたらよいのか？どんなことを「参加」というのか？
・「参加」のレベルをどこに設定したらよいのか？
・「活動」と「参加」をどう区別するのか？
・どこの項目から見ていけばいいのか見当がつかない。
・「今ある障害を克服すること」という考え方から脱し切れず，障害によるマイナス面を捉えがちになってしまう。
・課題や手立てを項目に求めてしまう。
・個々の指導員の生活経験の違いによる評価のばらつきが出る。

特に「参加」の捉え方について，「卒業後作業所に行く」「大学に行く」という大きな将来的な参加はすぐに発想できるのだが，現在の生活の中での具体的な参加をイメージすることが難しかった。このことにより，私たちが子どもを捉える時，寄宿舎内での生活だけを見ることに視点が滞り，子どもの生活を全般的に広く捉えられていないことを気づかされた。

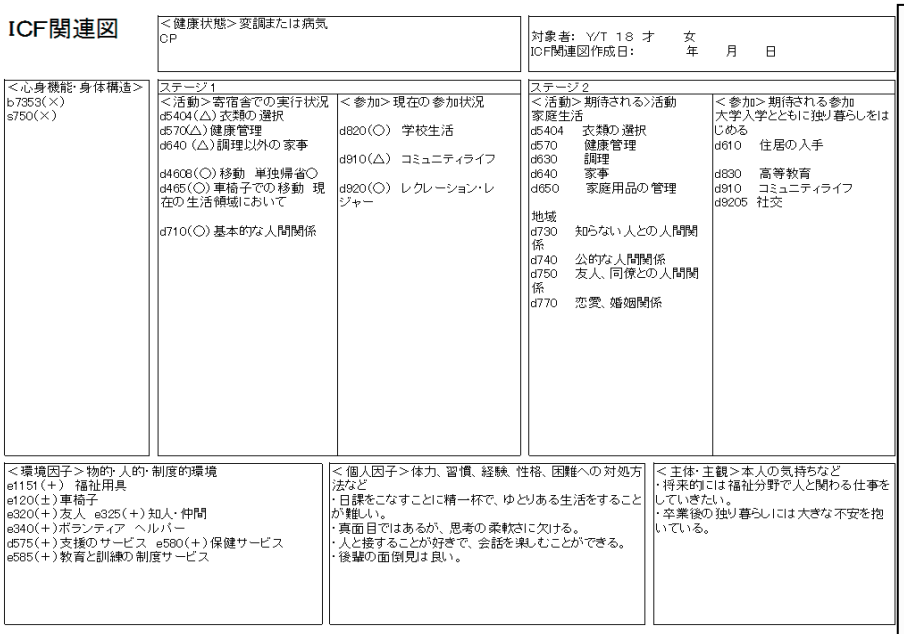
また，「活動」と「参加」をどう区別したらよいのか分からないという混乱も大きかった。「参加」は生活や人生場面への関わりであり，「活動」は個人の行為であるとされるが[3]，どちらも子

ども自身が活動することであり，分かりにくかったのではないかと考えられる。本校では，「参加…人や社会の仕組みへの関わり，活動…個人の行い」ということで再確認した。

○本校独自の関連図の作成

上記の関連図作成作業の中で課題となったことを参考にして，以下のような関連図を作成した。「参加」を捉えることに苦慮したため，参加のステージを以下の２つに分けて考えることとした。（図１）

ステージ１ 寄宿舎を中心とした生活における参加ステージ…ICF の視点で現状を考える。今，どんな参加ができているのか？休日の生活も含めて考える。
ステージ２ 現状から望まれる次の参加ステージ…ICF の視点で将来の課題を考える。 個々の能力に応じたステージを設定する。



事例〉高３　女子　脳性マヒ　電動車椅子使用

［ステージ１］

寄宿舎では自立した生活ができている。現在の生活環境(車椅子で移動可能)，介助者(寄宿舎指導員，教員，保護者等)があれば，生活上の大きな問題はない。

［ステージ２］

大学進学。一人暮らし。

生活圏の広がりによって，物的，人的な環境因子を整える必要がある。

図１　県立中央養護学校寄宿舎版関連図

②寄宿舎コードセット（活動と参加・環境）の作成

関連図作成作業では，WHO の「ICF 国際生活機能分類―国際障害分類改定版―」[3] や厚生労働省の「生活機能分類の活用に向けて」[2] 等を利用して項目を選んできた。しかし，項目の数が多く，どの項目から評価を始めていったらいいのか戸惑いが多かった。そこで，寄宿舎として必要と思われる項目を抜粋し，表現もわかりやすく工夫して寄宿舎コードセット（活動と参加・環境）を作り，評価の手順を簡素化することにした。（別表参照）

コードセットは，支援の場を寄宿舎に限定した場合必要とされる項目を関連図作成作業から探り，選択した。また，3 桁だけでは足りないと思われる項目は 4 桁までの項目，ICF-CY から必要とされる項目を選択した。

評価点については，数値による細かな評価ではなく，簡便な記号「○・△・×」とし，表記は

「コード（支援あり・支援なし）」という形をとった（例…基本的な姿勢の保持「d410（○・×）」）。

３．まとめと今後の可能性

関連図及びコードセットの作成を中心とした研修を進めていく中で，寄宿舎指導員の子どもを捉える視点が徐々に広がっていった。特に「参加」については，これまで発想の乏しかった新しい「参加」が見えるようになった。

例えば，筋ジストロフィーの診断を受けた子どもの事例では，この先の障害の状況を捉えることが難しく，現状の生活課題に対する支援を考えることばかりが先行していた。しかし，現状をICF の考え方に基づいて捉えることによって，「移動の介助」「尿瓶の利用」「車椅子サッカーへの興味」「地域との繋がり」などを見出し，卒業後，「地域のサークルでスポーツを楽しみながら，人との繋がりを増やしていく」という「参加」が導き出された。現状の「活動」に対する支援を行う時，「参加」への課題を提示することで，子ども自身も目的を持つことができるようになり，意欲的な「活動」へと変化が見られるようになっていった。

こうした視点の広がりから，これまで見出せなかった支援を導き出せるようになり，支援の幅が拡大していった。

平成 20 年度より，ICF 関連図をもとに寄宿舎での個別の指導計画を作成していくことになる。しかし，それは「評価すること」が目的ではなく，一人一人の子どもの背景を幅広く捉える視点を寄宿舎指導員が持つことで，よりよい支援を導き出すためである。コードセットや ICF 関連図を作成することのみが継承されていくのではなく，ICF の考え方を継続して共通理解を図っていくことが重要であろう。そのための研修の取り組みを今後も続けていきたいと考える。

また，子どもの様子がリアルに見える ICF 関連図作りを目指して工夫を続けていきたい。子どもの様子が見える関連図は，今後，学級担任，保護者，医療機関等との連携に共通言語として ICF が活かされることと考える。

今回の研修では，現在入舎している子どもに対する関連図を作成してきたが，これから取り組みとしては，生活調査（入舎前のアセスメント）への導入を考えている。本校では，入舎を希望する生徒に対して，生活実態調査を行っているが，その時に，ICF 関連図を使った実態把握を行うことで，入舎後の関連図作成作業がスムースに進むと思われる。そこで図２のようなシートを使って実態調査を行っていこうと考えている。

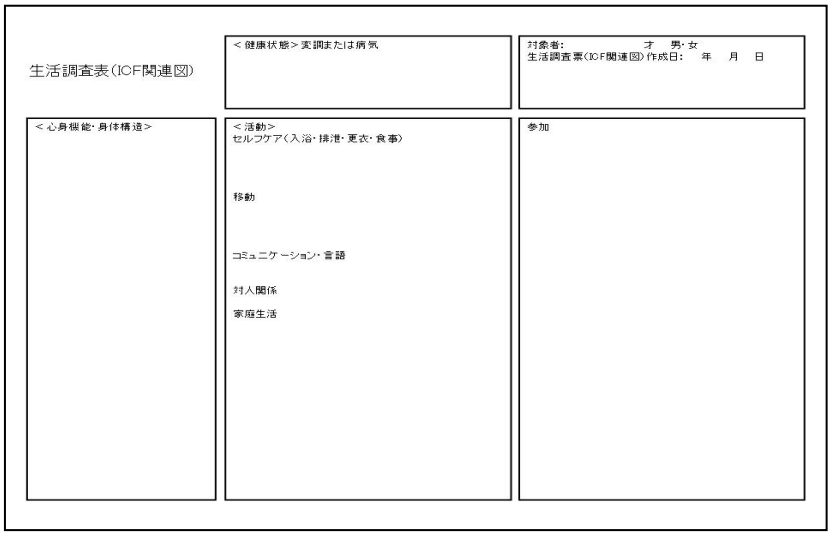


図２　生活調査用シート

生活技術の向上，獲得を目指す寄宿舎での支援においては，「生活」を幅広く捉える視点が

強く求められる。生活機能を全般的に捉えていく ICF の考え方は，まさに寄宿舎指導員に求められる視点であろう。

引用文献

１）独立行政法人国立特別支援教育総合研究所編著：ICF 及び ICF-CY の活用　試みから実践へ−特別支援教育を中心に−．ジアース教育新社，110−117，2007.

２）厚生労働省大臣官房統計情報部：生活機能分類の活用に向けて（案）－ICF（国際生活機能分類）活動と参加の評価点基準(暫定案)－，厚生統計協会，2007.

３）障害者福祉研究会編集：ICF 国際生活機能分類―国際障害分類改定版―，中央法規，2002.

（川口　ときわ）

（別表） 静岡中央養護学校寄宿舎・ICF及びICF-CYコード表　学年（　　） 氏名（　　）

	コード		支援なしの能力	支援ありの能力
1セルフケア 入浴・洗面・着替えなど	d510	自分の身体を洗うこと		
	d5100	手や顔、足、爪など身体の一部を洗うこと		
	d5101	清潔にする目的で身体の全身を洗うこと		
	d5102	身体を拭き乾かすこと		
	d520	身体各部の手入れ		
	d5200	皮膚の手入れ　皮膚のきめと保湿状態の手入れ		
	d5201	歯の手入れ　歯磨き		
	d5202	頭髪と髭の手入れ　髪を整える、髭を剃る		
	d5203	手の爪の手入れ		
	d5204	足の爪の手入れ		
	d5205	鼻の手入れ		
	d530	排泄		
	d5300	排尿　尿意を表出し、トイレで排尿すること		
	d5301	排便　便意を表出し、トイレで排便すること		
	d5302	生理のケア　生理を予測し、生理用品を用いること		
	d540	着替え		
	d5400	衣服を着ること		
	d5401	衣服を脱ぐこと		
	d5402	履き物をはくこと		
	d5403	履き物を脱ぐこと		
	d5404	適切な衣服の選択		
	d550	食べること		
	d560	飲むこと		
	d570	健康に留意すること		
	d5700	身体的快適性の確保　快適な姿勢をとること、暑さ寒さの調整、照明の調節の		
	d5701	食事や体調の管理　栄養のある食べ物の選択、摂取、体力維持の必要性を意識した上での自己ケア		
	d5702	健康の維持　疾病予防、薬物使用など健康上の自己ケアをおこなうこと		
2家庭生活	d620	物品とサービスの入手		
	d6200	買い物		
	d630	調理		
	d6300	簡単な食事の調理		
	d640	調理以外の家事		
	d6400	衣服の洗濯と乾燥		
	d6402	居住部分の掃除　整頓、掃除、雑巾がけ、窓や壁の掃除		
	d6403	家庭用器具の使用　洗濯機、乾燥機、アイロン、掃除機などを使用すること		
	d660	他者への援助　他者のセルフケア、移動、コミュケーション、栄養摂取などへの援助、気遣い。		
3対人関係	d710	基本的な対人関係　適切な思いやりや敬意を示すこと。他人の気持ちに適切に対応すること。		
	d7107	相手との相互のやりとり		
	d730	よく知らない人との関係　道を尋ねたり、物を買うこと		
	d740	公式な関係　公的な状況において、特定な関係を作り保つこと		
	d750	非公式な社会的関係　友人、隣人、知人、同居人、仲間と関係を作り保つこと		
	d760	家族関係　血縁や親戚関係を作り保つこと		
	d770	親密な関係　個人間の親密な恋愛関係、婚姻関係を作り保つこと		
4コミュニケーション	d310	話し言葉の理解		
	d3101	簡単な話し言葉の理解		
	d3102	複雑な話し言葉の理解		
	d315	ジェスチャー、一般的な記号とシンボル、または絵と写真の理解		
	d325	書き言葉によるメッセージの理解		
	d330	話すこと		
	d3350	ジェスチャーによる表出　身体の動きによって意味を伝えること		
	d3351	記号とシンボルによる表出		
	d3352	絵と写真による表出　描画、絵画、図解、写真によって意味を伝えること。		
	d345	書き言葉によるメッセージの表出		
	d350	会話		
	d3503	一対一での会話		

4	d3504	多人数での会話		
	d355	ディスカッション		
	d3550	一対一でのディスカッション		
	d3551	多人数でのディスカッション		
	d360	コミュケーション用具、技法の利用		
5 運動・移動	d410	基本的な姿勢の維持		
	d4100	横たわること		
	d4101	しゃがむこと		
	d4102	ひざまずくこと		
	d4103	座ること		
	d4104	立つこと		
	d4105	身体を曲げること		
	d4106	身体の重心を変えること		
	d4107	寝返り		
	d415	姿勢の保持		
	d4150	臥位の保持		
	d4151	しゃがみ位の保持		
	d4152	ひざまずいた姿勢の保持		
	d4153	座位の保持		
	d4154	立位の保持		
	d420	乗り移り		
	d4200	座位での乗り移り　座った状態から便座などへ、車椅子から車の座席へなど。		
	d4201	臥位での乗り移り　ベッドから他のベッドへの移乗など		
	d430	持ち上げることと運ぶこと		
	d4300	持ち上げる		
	d4301	手に持って運ぶ		
	d4305	物を置く　物をあるものの上やある場所に置くこと。		
	d435	下肢を使ってものを動かすこと　下肢で押すこと、蹴ること		
	d440	細かな手の使用		
	d4400	つまみあげること		
	d4401	握ること		
	d4402	操作すること		
	d4403	放すこと		
	d4408	細かな手の協調運動		
	d445	手と腕の使用		
	d4450	引くこと		
	d4451	押すこと		
	d4452	手を伸ばすこと		
	d4453	手や腕を回しひねること		
	d4454	投げること		
	d4455	つかまえること		
	d450	歩行		
	d455	移動		
	d4550	這うこと		
	d4551	登り降りすること		
	d4552	走ること		
	d4553	跳ぶこと		
	d4555	床面での平行移動		
	d460	さまざまな場所での移動　自宅内、自宅以外の屋内移動		
	d465	用具を用いての移動　車椅子、歩行器を使っての移動		
	d470	交通機関や手段の利用		
	d475	運転や操作　自転車、自動車などの交通手段の操作		
6 一般的な課題と要求	d210	単一課題の遂行		
	d220	複数課題の遂行		
	d230	日課の遂行		
	d2300	決められた日課の遂行		
	d2301	日課の管理　計画管理		
	d2302	日課の達成		
	d2303	自分の活動レベルの管理		
	d2306	スケジュールへの対応		
	d2305	時間内での日課の遂行		
	d240	ストレスとその他の心理的要求への対処、責任重大でストレス、動揺、機器を伴うような課題の遂行		

7 仕事・教育	d820	学校教育		
	d825	職業訓練		
	d830	高等教育		
	d840	見習い研修		
	d845	仕事の獲得・維持・終了		
	d8450	職探し		
	d8451	仕事の継続		
8 学習と知識の応用	d110	注意して視る		
	d115	注意して聞くこと		
	d120	その他の目的のある感覚　味、臭い、触覚		
	d130	模倣		
	d135	反復		
	d1400	シンボルや文字、単語を認識する力の習得		
	d1401	書かれた単語を発音する力の習得		
	d1402	書かれた単語や文を理解する力の習得		
	d145	書くことの学習		
	d170	書くこと　出来事などの記録を書くこと		
	d1451	シンボルや文字を書く技術の習得		
	d150	計算の学習		
	d172	計算　問題を解くために計算したり、その結果を示したりすること		
	d160	注意を集中すること		
	d163	思考　熟考　思案、反省（問題解決、意志決定を除く）		
	d166	読むこと　書かれた言語の理解や解釈を遂行する		
	d175	問題解決　問題の分析、選択肢や解決方法の展開		
	d177	意思決定　特定の品物を選んで購入する。課題の中から一つの課題の遂行を決定する。		
9 地域	d910	コミュニティライフ　社会的団体に関与すること		
	d920	レクレーションやレジャーに関与すること、遊び、スポーツなど（詳細下位から選択）		
	d9200	遊び　ルールのあるゲームや子どもの遊びに関与する		
	d9201	スポーツ　例えばサッカー、体操などへ関与すること		
	d9202	芸術と文化　例えば演劇、映画、博物館美術館へ行くこと、読書、楽器演奏、		
	d9205	社交　例えば友人や親戚の訪問、公的場場での非公式な集まりへ関与すること		

※　網掛け部分は、ICF-CYの項目

生活課題

活動・参加の課題となるコード

記録者〔　　〕